

令和6年度

徳島市城西中学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 基礎・基本の定着を図るわかりやすい授業の実践
- 教育DXを取り入れた主体的・対話的で深い学びを目指した授業の実践
- 家庭学習の充実

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
権藤貴士	校長 大栗一敏 教頭 中山 英治 湯浅 美代 教務主任 石井 幸 進学主任 川尻 隆之 1年主任 藤原博美 2年主任 森大樹 3年主任 小西智美 関係者 オオヤマ 駿

校長

大栗 一敏

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

相互の授業参観や教職員の情報共有、研修の活用など、教育活動の様々な機会を捉え、取り組み状況の把握に努める。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基本的な問題は解くことができ、家庭でも自主学習を行い、知識・技能を習得しようと努力することができる生徒が多い。 ●学習したことの定着や家庭学習の取り組みが不十分な生徒もいる。 ●習得した知識・技能を活用することが難しい。	・自主学習の内容を工夫した家庭学習に取り組むことができる。 ・基本的な知識・技能が定着し、既習の知識・技能を他の学習や実生活で活用することができる。	・反復学習を徹底した家庭学習の充実を図る。 ・教材の工夫やタブレットのミライシード、Metamoji Classroom等を活用し、個別最適化された「わかる授業」の実践に努める。 ・単元ごとに知識・技能を確認する場面を設定し、定着度を図る。	・タブレットを使用した実践について、教員間で共有し、積極的な活用を図る。 ・「わかる授業」の工夫や反復学習の充実を進める。	・生成AIの活用の研修を行い、それを授業実践に生かすとともに、「わかる授業」につながる取り組みを行うことができた。 ・定期テストだけでなく、授業内での小テストを活用し、定着度を図ることができるよう努めた。	・各教科において、授業の評価・改善を行い、よりよい教材開発や教材研究を進めることで「わかる授業」の実践に努める。また、タブレットを積極的かつ効果的に活用することにより、生徒の知識や技能の一層の向上が図れるような取り組みを行う。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○話し合いの場面で自分の考えを伝え合ったり、既習内容をもとにして考えたりすることができる生徒が多い。 ●自分の考えを論理立てたり、順序立てたりして表現することに苦手意識をもっている生徒が多い。	・家庭学習等で学んだことを活用して、発展的な問題に自主的に取り組み、思考力・判断力を高めることができる。 ・自分の考えを論理的にまとめたり、相手に分かりやすく順序立てて伝える力を身につけることができる。	・発展的な問題を取り入れることで、家庭学習の充実を図る。 ・タブレットやワークシート、ノートを活用し、自分の考えを表現し、思考の過程が見える化させる。 ・学習形態や学習方法を工夫し、自分の考えを表現する場を設定する。	・グループでの学習活動の前に、個人で思考する場面を設定する。 ・タブレットを使用した実践について、教員間で共有し、積極的な活用を図る。	・学習形態や学習方法を工夫し、言語活動の充実を図ることができた。 ・タブレットやワークシート、ノートの活用を工夫し、自分の考えを表現する力をつけることができたが、思考の過程が不十分な生徒も見られた。	・各教科において、言語活動や表現活動の場면을積極的に取り入れ、その活動を工夫し、自分の考えを表現できる力を育てる。タブレットの効果的な活用により、生徒が自分の考えを整理し、思考の過程が見える化できるような工夫を行う。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題に対して、真面目に取り組むことができる生徒が多い。 ●自ら課題を見つけて、主体的に取り組もうとする生徒が少ない。 ●発展や活用の場面で、粘り強く取り組むことができる生徒が少ない。	・主体的に授業に参加し、自らの課題に粘り強く取り組むことができる。 ・自分の学習状況を把握し、課題解決に向けて調整しながら主体的に学習を進めることができる。	・めあてや学習の流れを提示する等、見通しを持たせ、主体的に取り組むことができる工夫をする。 ・単元の振り返りやポートフォリオを活用し、自分の学習状況を把握する場を積極的に取り入れる。	・生徒の興味や関心に沿った教材の研究・工夫の充実を図る。 ・生徒のつまずきに対して、細やかな個別指導を行った。振り返りの工夫や改善を図ったりする。	・各教科において、生徒が興味関心をもつことができるような教材や授業の進め方を工夫したが、意欲的に取り組むことができない生徒が見られた。 ・振り返りをさせたが、内容が不十分な部分があり、自らの学習状況を把握できていない生徒もいた。	・生徒が自分の学習状況を把握し、課題解決に向けて粘り強く取り組むことができるような工夫を行う。生徒がよりよい振り返りができるよう問い方を工夫し、内容の充実が図れるようにするとともに、その振り返りが家庭学習につながるような実践を行う。

令和6年度 学力向上ロードマップ

